

ザ・ヴィレージアルファ 1

THE VILLAGE ALPHA 1

所在地——北海道勇払郡占冠村字トマム 675—2

建築主——関兵精麦株式会社

設計者——株式会社観光企画設計社

施工者——株式会社大林組

竣工——1985 年 10 月 31 日

location——Shimukappu, Hokkaido

owner——Sekihyo Seibaku, Inc.

architects——Kanko Kikaku Sekkei-sha

contractor——Ohbayashi Corporation

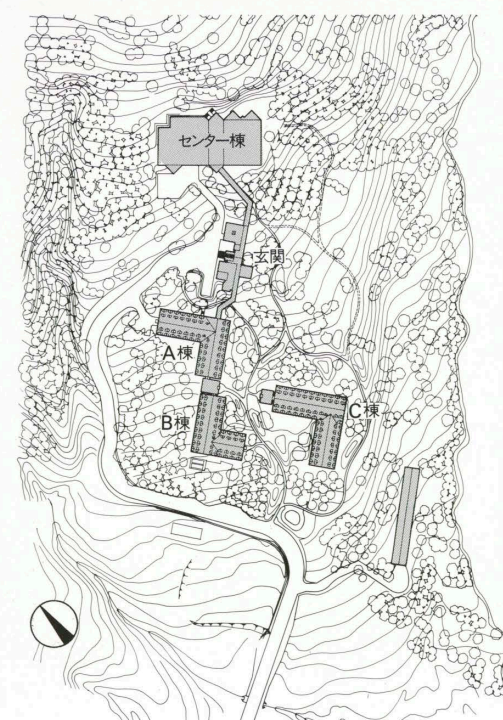
completion date——October, 1985



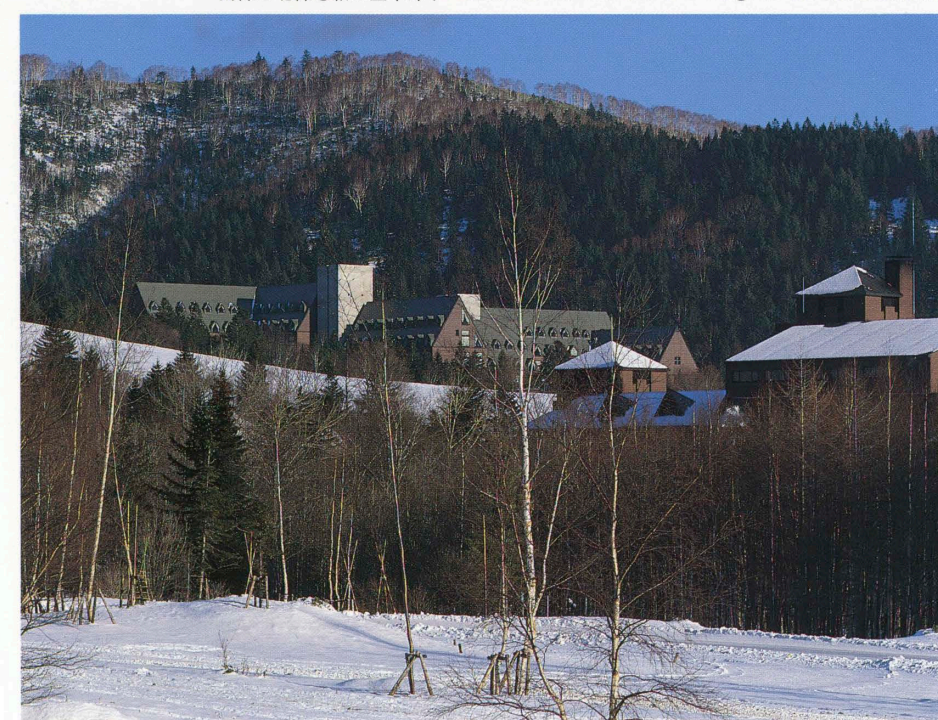
西側からの遠望(左中央、右下は 1 期工事で完成の施設) Distant view (middle on the left).



南棟と北棟を結ぶ空中廊下 Corridor between the two wings of the condominium.



配置図 縮尺 1/5,000



西側からの全景 General view.

住宅棟

建築概要

敷地面積 7,585 m²

建築面積 3,500 m²

延床面積 24,655 m²

構造＝鉄筋コンクリート造壁式ラーメン構造

規模＝地下2階 地上10階 塔屋2階

仕上げ概要

外部仕上げ 屋根フッソ樹脂塗装鋼板 外壁：
珧器質タイル打込み 断熱PC板 コンクリート
打放し

内部仕上げ 多目的室・廊下・住戸居間・寝室

床：カーペット敷込み 壁・天井：ビニール
クロス貼り ショップ 床：カーペット敷込み
壁・天井：PB◎12% AEP

設備概要

空調 熱源：電気 方式：単一ダクト＋コンベ
クターボイラー 真空式給湯暖房温水器

衛生 給水：重力給水方式 給湯：セントラル
方式 排水：分流式

消火 屋内消火栓・連結送水管・ハロゲン化物
消火設備

玄関棟・センター棟(レストラン)

建築概要

敷地面積 5,178 m²

建築面積 2,776 m²

延床面積 3,140 m²

構造＝鉄筋コンクリート造 鉄骨造

規模＝地下1階 地上2階

仕上げ概要

外部仕上げ〈玄関棟〉屋根：アスファルト露出
防水 外壁：珧器質タイル貼り 建具：アルミ
サッシュ自然発色 〈センター棟〉 屋根：ア
スファルト防水コンクリート押え・アイゾール
モルタル防水 外壁：珧器質タイル貼り 建
具：アルミサッシュ自然発色

内部仕上げ 〈玄関棟〉 渡り廊下 床：カー
ペット敷込み 壁・天井：コンクリート打放し
風除室 床：珧器質タイル貼り 壁・天井：コ
ンクリート打放しビシヤン仕上げ フロント・
ロビー 床：カーペット敷込み 壁・天井：コ
ンクリート打放しビシヤン仕上げ

設備概要

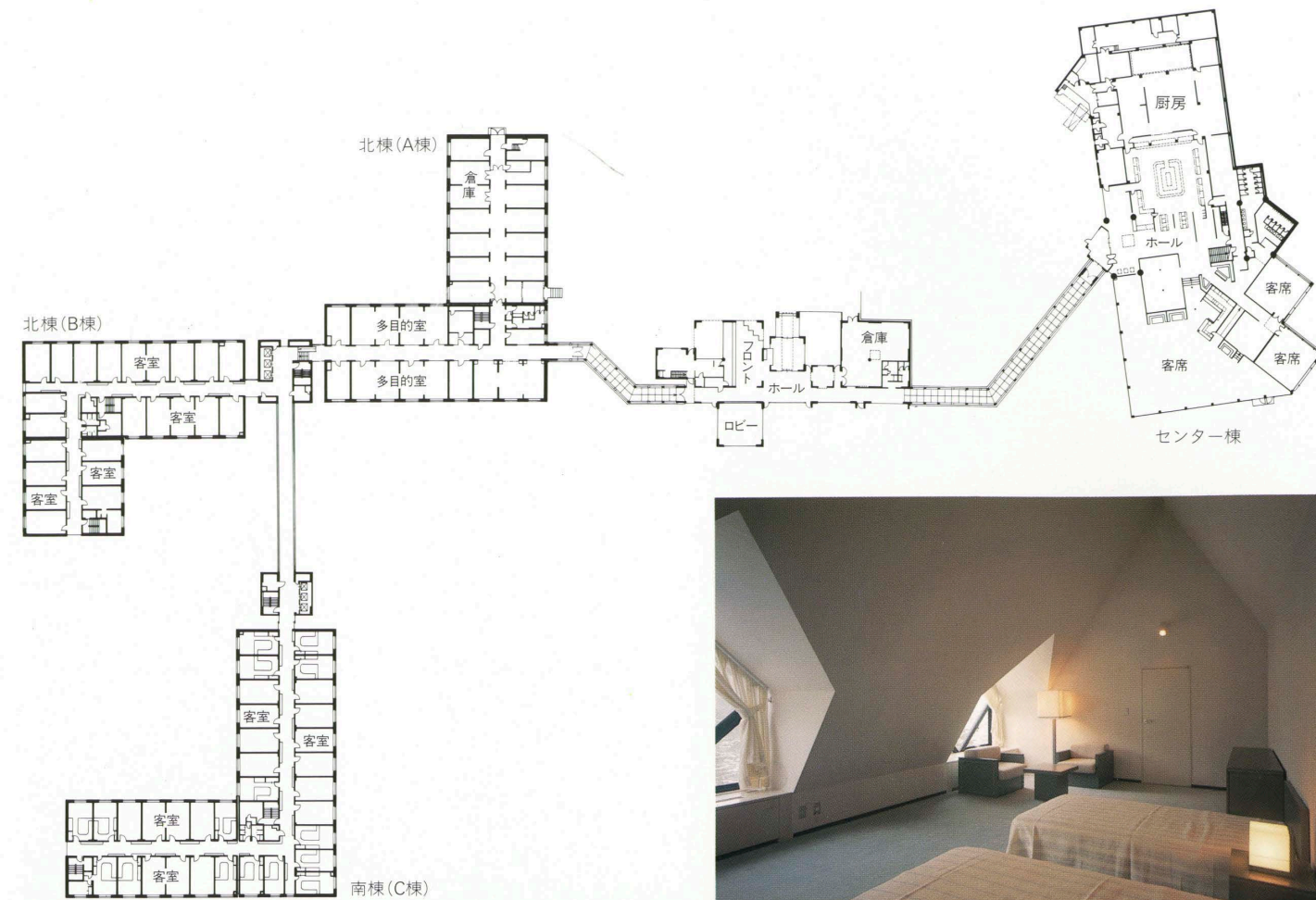
空調 熱源：〈玄関棟〉住戸棟より〈センター
棟〉温熱源住戸棟より 方式：〈玄関棟〉コン
ベクター方式〈センター棟〉ファンコイルユニ
ット＋コンベクター方式

衛生 給水：〈玄関棟〉動力給水方式〈センタ
ー棟〉重力給水方式 給湯：〈玄関棟〉局所方
式〈センター棟〉局所方式 排水：〈玄関棟・
センター棟〉分流式

消火〈センター棟〉屋内消火栓・ハロゲン消火
設備



センター棟レストラン Restaurant in the center wing.



平面図 縮尺 1/1,200



コンドミニアム内部 A unit of the condominium.



コンドミニアム内部 A unit of the condominium.

敷地は、息をのむような壮大な北海道の自然の直中にある。1,000ha という広大な敷地の内に、から松、トド松で覆われた大地が起伏し、草原が輝き、清冽な水が流れる。この自然の中に、これまでの日本にない規模と内容を持つリゾート地が建設されつつある。その構想そのものが、この自然に劣らず雄大かつ新鮮で、今後のリゾート開発の新しい方向を示すものとして注目される。この構想の基本は、ホテル、スキー場、ゴルフ場、テニスコートを、総合的に複合させた余暇のための生活の場をつくることにあるが、その中核となる施設が、リゾート・コンドミニアムである。

設計者、上原氏は、観光企画社時代よりこの計画に係わり、やがて現地に事務所を自立させてこの計画に打ち込まれた。その献身的努力は、発想新鮮にしてかつ入念に練り上げられて、見事な建築として結実した。

急勾配の切妻屋根が、針葉樹林の間に見えかくれしている。建物の外壁は、褐色のタイルに覆われ、単純で閉鎖的な外形を見せている。それは周辺の樹林を、ほどよい対比と調和を保つのに成功している。

総数300を超える住戸が3棟にまとめられ、渡り廊下でつながれているのだが、決して自然の樹林を乱している感じがし

ない。むしろ樹林の雄大さが、その建物によって強調されている感すらある。これは、建物の形態によっているだけでなく、原生林の中に散在する空地の日溜まりを利用して建物を配置するという入念な設計のたまものである。住戸の大きな窓から、あるいは、建物を結ぶ空中ブリッジや連絡廊下から見ると、うっそうとした樹林の素晴らしさは、他に類がなからう。

住戸ユニットは2層のメゾネット形式を基本としている。このメゾネットの断面形式は、通例のように吹抜けを窓側にとることをせず、逆に入口側にとって、寝室部分を窓際に配している。これは、見事に成功して、日常的な住居空間を超えた独特のリゾート感覚を生み出している。こうした空間構成を実現するための技術的工夫として、10階建ての薄肉ラーメン構造を開発し、仕上げ、設備断熱工事全体を総合的に計画している点も評価に値する。

施工は、原始の大自然の中で、困難を極めたものであったが、環境の保全に細心の注意を払い、入念な建物を完成させている。北海道の自然の中で生まれ、育った工事担当者から、その自然に対する深い愛着の念を聞いた時、建築をつくる者の精神の根幹を見た思いがし、敬服した。

[REVIEW]..... Hisao Koyama, Hisashi Ogitali, and Takashi Nakajima

The site is a sweeping 1,000 hectares of breathtaking Hokkaido scenery where sparkling rivers flow through gleaming plains and rolling hills covered with larch and white firs. On this land is being planned a resort settlement, unprecedented in scope in Japan and big and fresh enough in size and concept to be worthy of its setting. Hotel, skiing, golf, and tennis facilities provide everything needed for an overall leisure-life. But the core of the entire project is the resort-condominium.

With its steeply pitched roofs, partly visible through the conifers, and its simple, closed-looking walls faced in dark brown tiles, the condominium building preserves a nice balance between contrast and harmony with the surrounding forests. The 3 wings, housing a total of more than 300 dwellings, connected by enclosed corridor-passages offer no disturbance to the natural setting. Indeed, the buildings seem to emphasize the scale of the trees. The effect is the result not only of architectural forms, but also of a placement among the trees that makes carefully calculated use of open spaces and pools of sun-

light. Large apartment windows, suspended bridge-passages, and glazed corridors all command wonderful views of the deep blue-green of the conifer groves.

The basic apartment unit is a two-story maisonette. Usually, a living room space open the full height of both stories is put at the window end of a maisonette apartment. In this case, however, a plan better suited to life in a resort setting has been skillfully evolved by putting this two-story open zone at the front-door end and the second-story bedrooms at the window end. Achieving this demanded technical ingenuity and the use of a think-skin, rigid-frame structure in the ten-story building. This success and finishing and planning in terms of everything including insulation deserve praise.

The remote nature of the location greatly aggravated construction difficulties, as did the importance of protecting the environment to the maximum. Contractors born and bred on Hokkaido demonstrated their attachment to their northern home island in the splendid way in which they triumphed over all these problems.